

【収入保険】私の選択・加入者の声

「安定した経営のために」

【滋賀県東近江市
農事組合法人 蒲生寺町営農組合
代表理事 角 徳男 さん】

経営規模 = 水稻 18.6[㌧]、輸出用米 6.2[㌧]、小麦 9.1[㌧]、大豆 3.3[㌧]



自分たちの土地は自分たちで守ることを目標に、平成25年、集落の農家13人が集まり農事組合法人を設立しました。当初、13人だった組合員も、高齢化等で今では6人になりました。70代が2人で、残り4人は40代～50代の組合員ですが、兼業農家のためいつでも農作業に出られるわけではありません。

収入保険には、制度開始された令和元年から加入しています。当時は、「収入保険」か「共済と収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）」かで地域の農家の意見は二分されていました。その中で、当組合は、蒲生地域で一番に収入保険に加入しました。

法人の経営で重要なのは持続性であり、どれだけ安定して経営できるかどうかだと考えています。その点で収入保険は、法人経営の安定に直結する農作物の売上を補償してくれます。

収入保険に加入することで、法人経営において長い目で見て、安心と安定を得ることができます。